

山と博物館

第52巻 第4号 2007年4月25日

市立大町山岳博物館



滝雲流れる鹿島槍ヶ岳

©近藤辰郎／撮影

山岳フォトコンテスト「アルプス一万尺―岳都大町をめぐる山々―」の開催

市立大町山岳博物館

大町市は、山岳博物館が平成13年に創立50周年を迎えたのを機に、先人たちが守り育ててきた山岳文化を受け継ぎ、豊かで美しい自然を次の世代に伝えていくため、平成14年に「山岳文化都市宣言」をしました。そしてこの度、新たな大町市の魅力の発掘および大町市の景観・環境保全への関心を高めてもらおうと、大町市の山々を対象としたフォトコンテストを開催します。

応募作品は「コンタツおじさん」こと、写真家・近藤辰郎氏により選出され、受賞作品および主催者推薦作品は平成20年6月12日（木）～29日（日）に開催予定の企画展「アルプス一万尺―岳都大町をめぐる山々―」で展示するとともに、パンフレットやホームページなどを通して、写真に添えていただいた山岳環境に対するメッセージとともに全国へ発信します。

ファインダーの向こうに百年先も変わらぬ北アルプスの景観が想像できるような、自然の魅力、そして環境保全への関心を高めるきっかけをご提供できればと考えています。

応募用紙など詳細につきましては、山岳博物館のオフィシャルホームページをご覧ください。だくか、直接、お電話またはメール等でお問合せください。締切は12月2日です。ご応募をお待ちしています。

URL <http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/>
E-mail: sanpaku@city.omachi.nagano.jp

ザラ・針ノ木越えの検証(二)

小林 茂 喜

三 ザラ峠・針ノ木峠は

どんな峠だろうか

さて、成政が厳冬期にザラ峠を越えたという伝承が早くから存在したように、それは事実ではないという見解もまた早くから存在しました。

加賀藩の軍学者有沢永貞(寛永→正徳年間の人)は「長湫合戦前後略譜」(宝永三年・一七〇六)の中で、「太閤記二十一年下旬ニ越中ヲ立テ十二月ニ帰城トアルハ不審

シ」として「芦峠ノ者ニ問フニ、冬日立山ニ登ル事ハ絶エテナキ事也：十一月ノ日、人ノ通フ事ナシ」と言っています。

有沢の見解は、現地をよく知っているものには極めて妥当で合理的な見解と写ります。

それではいったい、そのザラ峠・針ノ木峠なるものはどのような地形や自然の特質を持ったものでしょうか、その概況を見てみましょう。

ザラ峠の標高は三三四八m。峠とはいっても



写真3 急斜面となっている針ノ木峠直下(長野県側)



写真1 浄土山よりザラ峠(中央くぼんだ部分)を望む
富山県側の急斜面と崩落状況がよくわかる



写真2 ザラ峠(中央凹部)と中ノ谷上部(黒部川側から)
雪渓上の黒い筋が岩くずれの跡

る「武功夜話」には、「路次深雪悪路を越え」（巻一五）とか「北国大雪」（同）とかいう表現が度々登場しており、むしろ例年より雪が多かったことがわかります。この時期は雪が落ち着いていないので雪崩も起きやすく、大雪であればなおさらのことです。そういう時期に、本当にザラ峠や針ノ木峠が越えられたのでしょうか。

四 三つある「ザラ峠」

こうしたことから成政一行が越えたザラ峠・さらさら越えは実はこの立山のザラ峠ではないという説もあります。

ザラ峠（さらさら越え）は、立山の他にも二つあるといわれています。一つは背枥泉達録などのいう上路（揚路）越えコース、いま一つは鎌倉街道安房峠越えです。

上路越えコースは、越中から上路川に沿って上り、上路・橋立を経て清水山の裏山を越え山之坊から来馬に至る道筋です。清水山の裏山に「さらさら越え」と記した寛政七年の絵図があるといえます。成政研究の泰斗遠藤和子氏は、このコースを成政が帰路に使った可能性があると説を紹介しています。

一方、安房越え鎌倉街道は有峰から山之村（神岡町）・見座・栃尾・平湯を経て安房峠を越え沢渡から稲核を経て深志（松本）に至る道筋です。この古安房峠が別名ザラ峠であるといえます。冬の状況からすればこのルートの方が針ノ木コースに比べてはるかに交通が容易だといえます。

上路越えルート説には、それを補強する材料もあります。一つは大所（北小谷）に成政一行が通過したという伝説があること、もう

一つは来馬の松沢家（現在は大町市在住の松沢一登さん）に、成政の先祖が親鸞から御真筆の名号をもらったと伝える「畧縁記」が残されていることです。（但しこの畧縁記は「天文」を「天正」の後に置き、成政主従が立山を越えた時を天文三年九月としていているなど、内容には疑問点があります。）

この二つの説は、厳冬の立山ザラ峠を越えることは困難との判断から導き出されたものですが、両説とも大きな弱点を持つていていえないでしょう。

まず上路越え説ですが、このルートは越後の上杉領を通過しなければなりません。ところがこの時期、上杉景勝は度々越中へ侵入しています。十二月十五日にも成政の属城を攻め落としているのです。信州側も一部は上杉の影響下にあり決して安心できる場所ではありません。このような状況の中で、上路越えを選ぶ利点はそれほどないに思えますがどうでしょうか。どうせ敵地を通過するならば、飛騨から美濃へ出る路の方が目的地に近いだけまだましなように思えます。

では安房越えはどうでしょうか。この説は集落から集落を辿れるという点で都合があると服部氏は言われます。確かにそうですが、逆に山中を通ることあまりに長いのではないのでしょうか。特に安房を越えてから稲核に至る間は、やはり雪崩の恐怖に戦きながら梓川を何度か徒渉しつつ長い谷を下らなければなりません。しかも安房もまた二千m級の峠であり、冬の往来は途絶えるのです。成政に関する伝承伝説の類が残されていないことも弱点でしょう。

（信濃史学会会員）

バックナンバーのお知らせ

次の巻号の『山と博物館』バックナンバーがあります。ここで紹介した各号収録の題名・著者は主なものですので、詳細についてはお問い合わせください。（『山と博物館』編集部）

▽第四九巻一〇号（平成十六年十月）

八十年前の山岳映画今、その真価とは…

山村 隆

趣味の登山がアルピニズムを超えたとき

―伊藤孝一没後五十年に―（後） 布川欣一

▽第四九巻一一号（平成十六年十一月）

「塩の道」に関する二題 有川 劭

千国古道と糸魚川街道

―歴史の道の呼称のあり方―（前）小林茂喜

▽第四九巻一二号（平成十六年十二月）

ニホンカモシカの名前を募集します

千国古道と糸魚川街道 大町山岳博物館

―歴史の道の呼称のあり方―（後）小林茂喜

（敬称略）

バックナンバーの請求方法

右記にご希望の巻号がありましたら、一部一〇〇円にて販売いたします。

博物館窓口で直接お買い求めいただくか、巻号・部数を明記の上、現金書留か口座振替で大町山岳博物館宛代金をご送金ください。ご入金を確認次第、ご希望のバックナンバーをお送りいたします（送料当方負担）。

資料の寄贈ありがとうございます
当館の収蔵資料充実のため、平成十八年度中、あらたに次の博物館資料を寄贈いただきました。心より厚くお礼申しあげます。

化石標本65点	個人（長野県）
フアウフ製ビッケル、山内製アイゼン2点	個人（東京都）
カモシカ皮製尻当り1点	個人（静岡県）
書籍など52点	個人（神奈川県）
牧潤一（ペン画）プリント作品36点	個人（埼玉県）
書籍、地形図2点	個人（神奈川県）
書籍2点	個人（神奈川県）
東京トップ製ビッケル1点	個人（東京都）
門田製ビッケル1点	個人（東京都）
ノスリ剥製1点	個人（長野県）
米軍放出品（毛糸製セーターほか）など8点	個人（福岡県）

（市立大町山岳博物館）

人事異動のお知らせ

昨年十月一日付で庶務・勝山直人事が教育委員会生涯学習課平公民館へ転出、産業建設部農林水産課庶務係より平林恵理子主事が転入しました。
また四月一日付で学芸員・関悟志主事が教育委員会生涯学習課生涯学習・青少年係へ転出、産業建設部建設課庶務係より岑村隆主任が転入しました。

山と博物館 第52巻 第4号

発行 平成十七年四月二十五日発行
〒388-0002 長野県大町市大町八〇五六一

市立大町山岳博物館

TEL 〇二六―二二二―〇二二

FAX 〇二六―二二二―二二二

E-mail: sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL: http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

印刷 奥村印刷

定価 年額 一、五〇〇円（送料含む）（切手不可）
郵便振替口座番号 〇〇五四〇一七―一三三九三